

# どうして死刑についての情報が隠されているのか

## ～自分の考える情報公開～

平成29年度 3年1組(2) 池内響香  
指導 法文学部 人文社会学科 関口 和徳

### はじめに

現在日本では徐々に改善されてきてはいるが、死刑に関する情報公開がまだ進んでいない。なぜ、日本は死刑に関する情報を隠さなくてはならないのかという疑問を持ち、調べてみることにした。また、日本とアメリカを比較し、日本の死刑についての情報公開の在り方について考えた。

### 日本の死刑についての情報公開の現状

政府は、年度ごとに作成する統計資料によってその年度の死刑執行数を公表する。

1998年11月から

- ①死刑執行の事実
- ②死刑執行した人数

2007年12月から

- ①執行を受けた者の氏名・生年月日
- ②犯罪事実及び執行場所を公開

法務省ホームページ「死刑執行に関する情報公開について」より  
<http://www.moj.go.jp/content/000096614.pdf>

2010年8月27日

死刑の刑場を初公開(東京拘置所にて)

- ・千葉景子法務大臣(当時)は、報道機関に死刑の刑場を公開した。国会議員の視察を除けば初めての公開であった。「死刑への国民的議論のひとつの材料になる」と述べた。

問題点

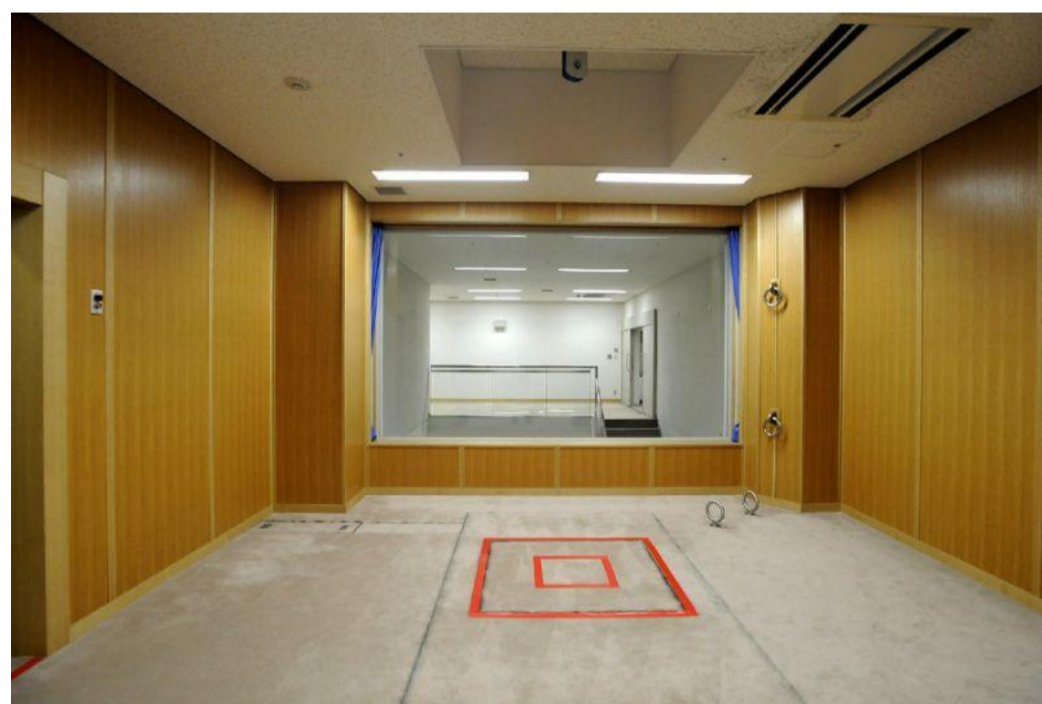
- 公開されたのは、刑場という、あくまで施設だけで、まだ秘密になっている情報は多い
- ～刑場公開に対して～

賛成意見

- ・いかに死刑が人道的にひっそりと実行されているのか理解できる。
- ・刑場公開は、犯罪抑止に効果があると思う。

反対意見

- ・刑場を公開することにどのような意味があるのかわからない。
- ・刑場を公開することに、犯罪抑止力は無い。



→実際の死刑場の写真

### 目的

死刑についての情報を知ることによって、死刑制度に賛成か反対かについて正しい判断ができる。また、裁判員制度などで一般市民が死刑判決を行う際に、死刑についての情報を知っておかなければ正しい判断をすることはできないと考える。したがって、死刑制度の情報公開についての現状を調べていき、どうすれば日本の情報公開が進むのかを考える。

### 死刑についての情報公開の必要性

- ①死刑について情報公開をすることによって、法務省などが行っている「死刑に対して賛成なのか、反対なのか」という世論調査の内容が深まり、正確な情報になる。
- ②裁判員制度の導入により、一般市民が裁判員として死刑の判決を下さなければならない場合があり、死刑についての情報を知らないままでは、死刑という実態を知った上で判決は下せない。
- ③情報公開をすることによって、日本の死刑執行方法は正しいのかを初めて考えることができ、そのことについてしっかりと話し合いができる。
- ④死刑執行される前に死刑囚と面会をする時間を与えることで事件についての情報を事件関係者の人が知ることができる。

### 日本に必要な情報公開

- ・死刑執行の残虐さを知るため  
→実際に日本で起こった冤罪についての事例を公開する  
→死刑場を実際に見学する
- ・日本が行っている死刑執行は正しいのか考えるため  
→日本の死刑執行までの流れを公開する  
→絞首刑を採用している理由を公開する
- ・死刑囚との面会の時間・最後の別れの時間を確保するため  
→執行される日程を死刑囚の関係者・被害者遺族に知らせる
- ・冤罪の危険性を減らすため  
→死刑執行を行う前に、弁護士・ジャーナリストに知らせる

### 日本で情報公開が妨げられている理由

・死刑に関する情報の公開が進んでいない原因として、「刑務所・刑事施設や刑罰の執行状況などの情報をなるべく公開しないようにする」という法務省の**密行主義**が原因とされている。

理由

- ①死刑囚に死刑を執行する日程や方法について前もって知らせることによって、死刑囚が不安になったり、抵抗したり、自殺したりするのを防ぐため。
- ②死刑確定者の家族・関係者に与える影響や名誉への配慮を考えているため。

### アメリカの情報公開の状況

- ①死刑囚の家族と被害者遺族は死刑執行の際に立ち合うことが認められている。
- ②州によると、望んだ一般市民・マスコミも立ち合いが認められている。
- ③立会人の人数が規定の数字を満たさなければ死刑を執行できないところもある。また、希望者が少なければ、新聞などに募集広告が出る。

※アメリカで死刑制度を維持している州の立会人基準は、人数などの細かい違いはあるが、遺族や家族、ジャーナリストが立ち会える点では共通している。

### ～この研究を通して～

今回調べることにより、日本の死刑についての情報公開の問題性についてよくわかった。日本は、法務省の密行主義によって情報公開が妨げられている。密行主義をなくすためには、死刑についてもっと人々が興味を持ち、死刑の情報公開に対して問題を感じなければならぬと思う。日本では、死刑を閉鎖的空間で行われているため疑問なことが多くある。死刑を執行するにあたって、死刑囚の関係者・被害者遺族の心情についてもっと考えなければならぬと思った。

### 参考文献

- ・団藤重光『死刑廃止論[第6版]』(有斐閣, 2000年)
- ・小倉考保『ゆるる死刑』(岩波書店, 2011年)
- ・布施勇如『アメリカで、死刑を見た』(現代人文社, 2008年)
- ・布施勇如『日本の死刑執行を巡る密行性』(龍谷法学47巻4号, 2015年)

### 謝辞

研究の指導、アドバイスをくださった愛媛大学法文学部関口和徳先生、担当の大西先生本当にありがとうございました。